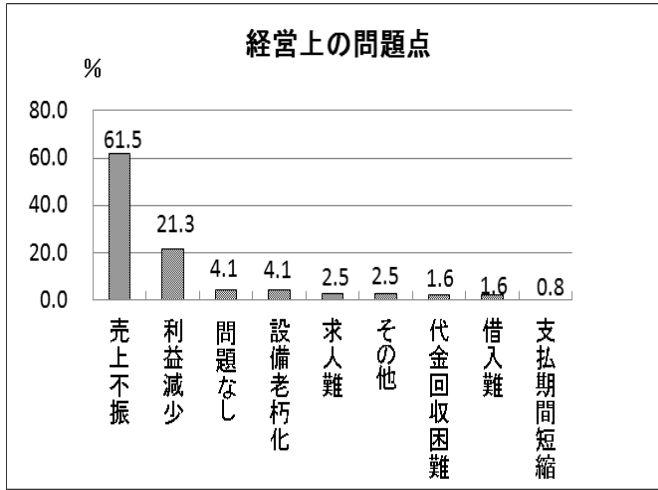
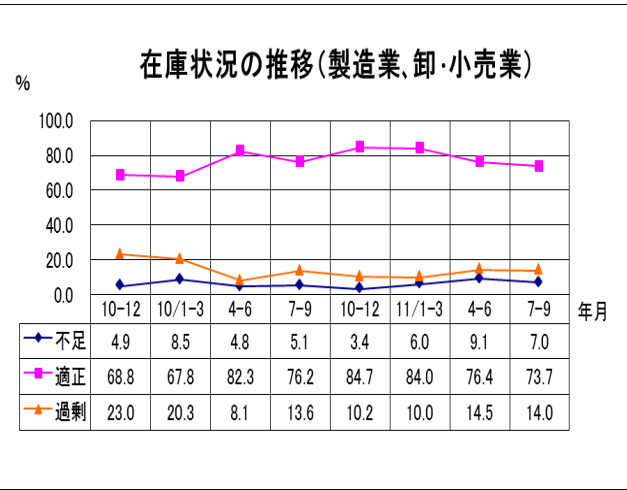
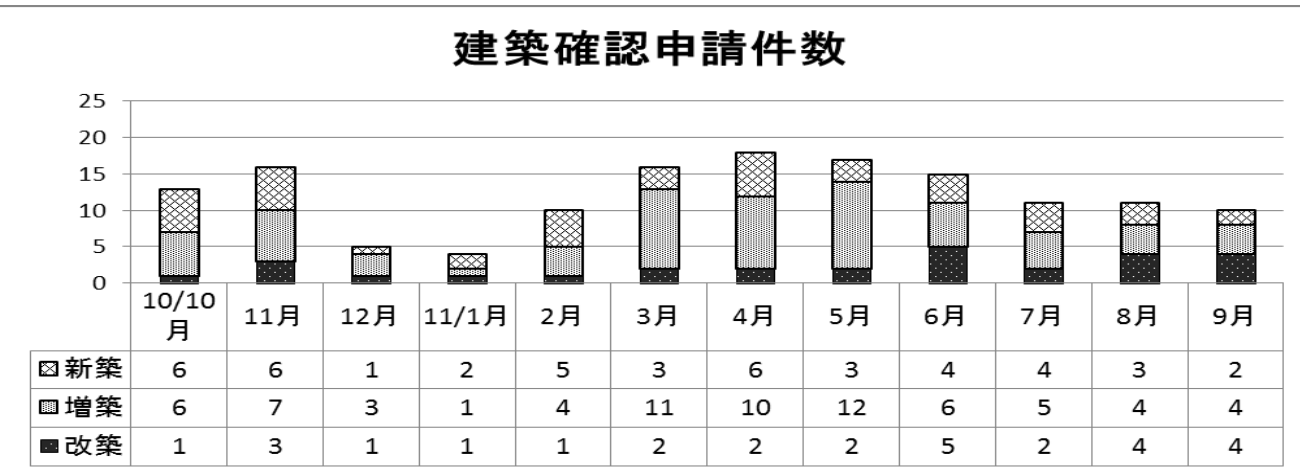


村上市景況調査報告

平成23年7～9月期の実績と平成23年10～12月期の見通し



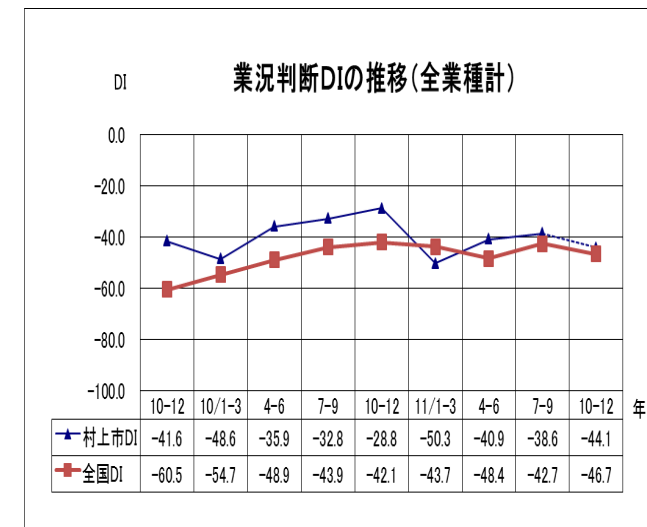
調査時期：2011年9月中旬～2011年10月上旬
 調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 119社 (回収率59.5%)
 [業種別内訳] 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社
 [地区別内訳] 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社
 実施機関：村上市商工観光課
 村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会
 分析機関：村上商工会議所
 全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】(2011.7～9実績、2011.10～12見通し)
 日本政策金融公庫 総合研究所



DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合 (売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。)

『持ち直しが鈍化し、円高等による景気の下振れを懸念』

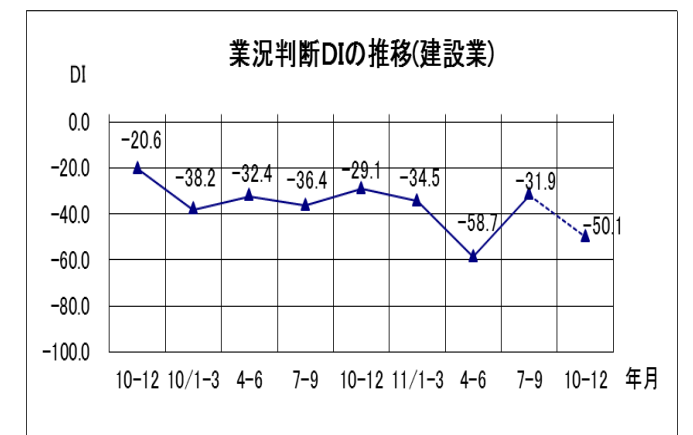
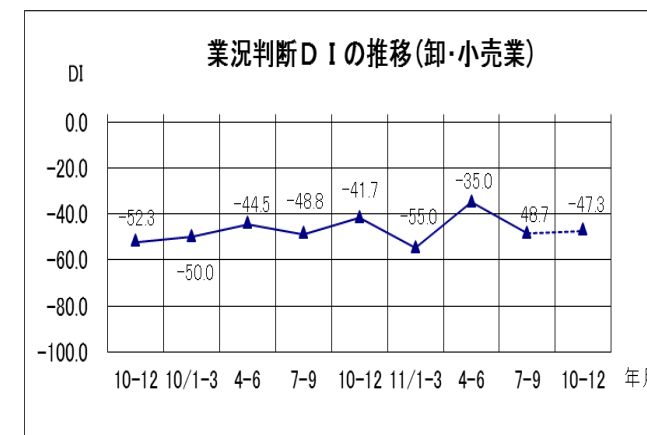
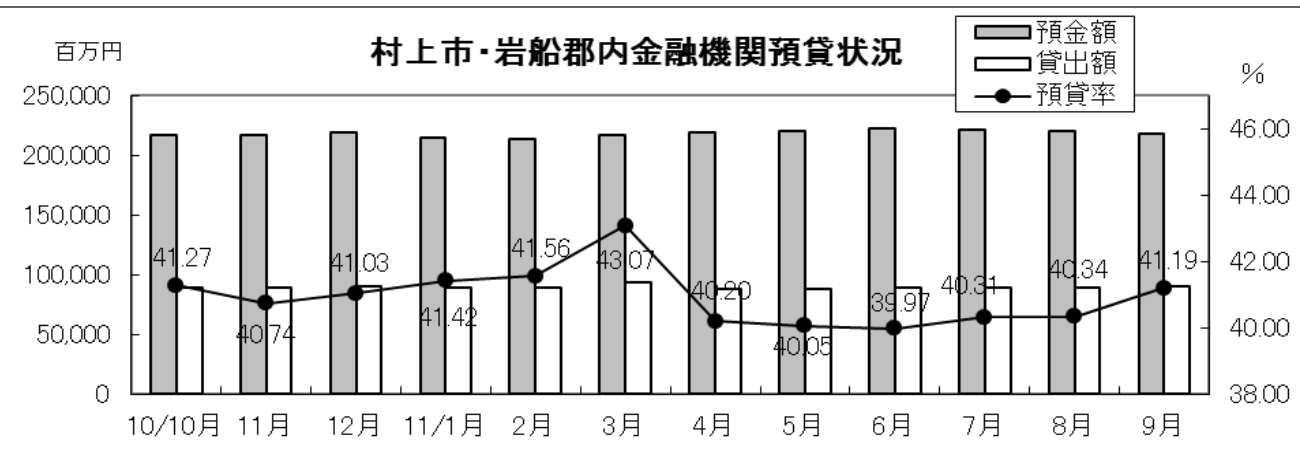
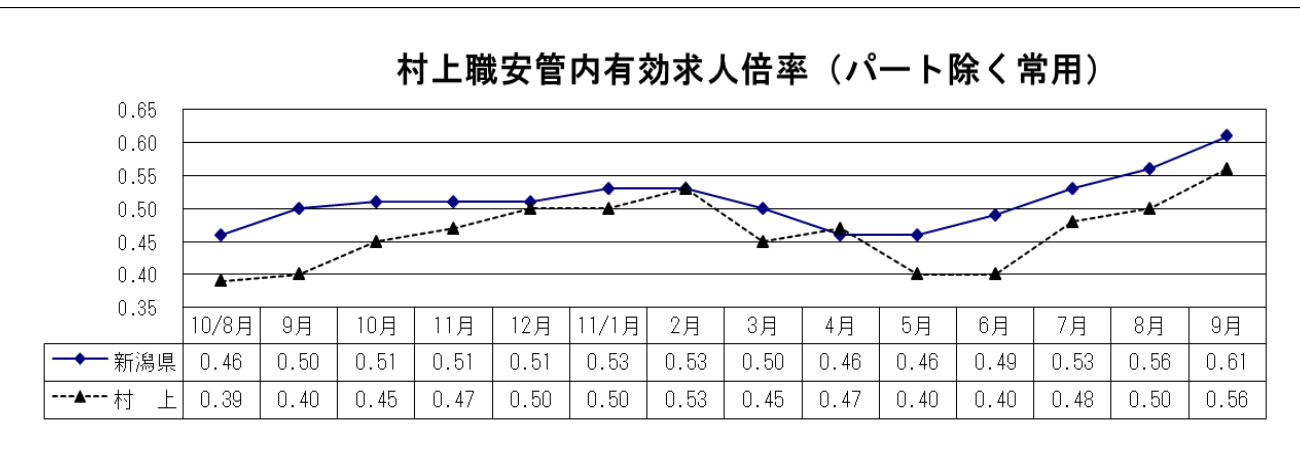
■村上市の業況

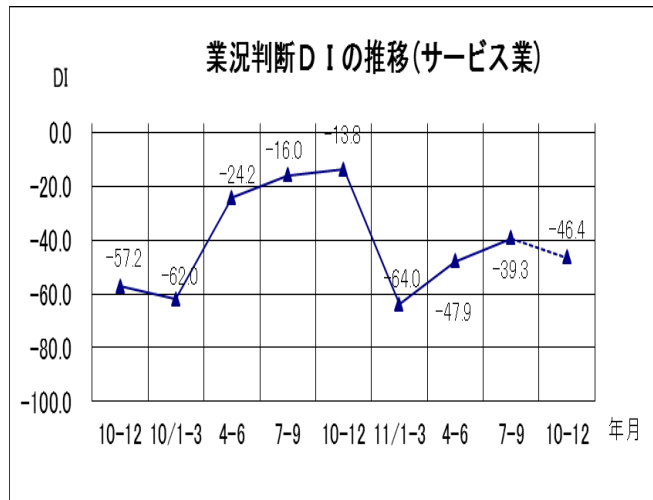
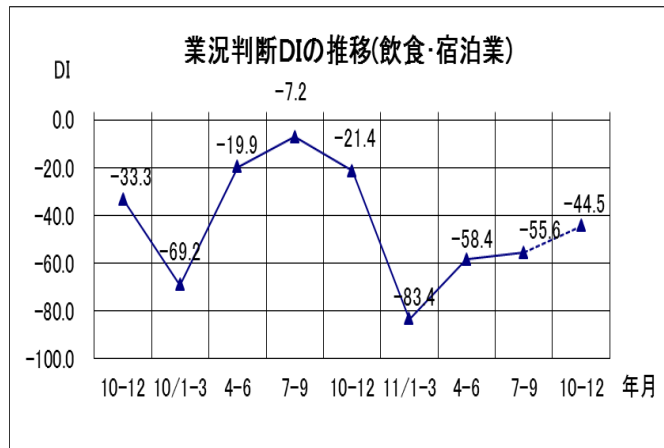
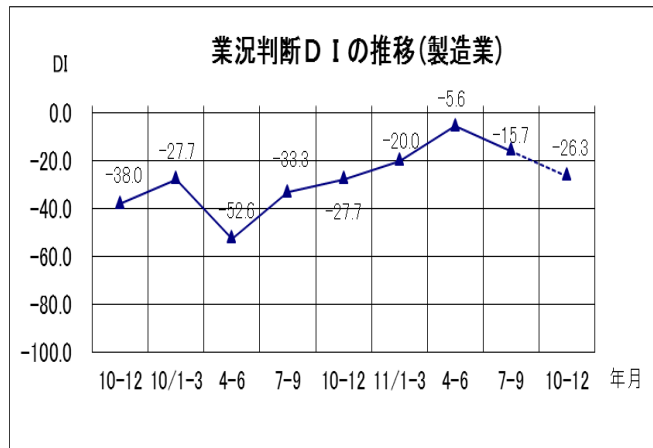


今期(11/7～9月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(11/4～6月期)に比べて2.3ポイント上昇し▲38.6となった。また、前期での今期見通し(▲37.0)より1.6ポイント下回った。これは、公共工事が減少しているなか、展示会等の自助努力で受注を確保するなどした建設業やサービス業、飲食・宿泊業でDIが上昇したため。東日本大震災の影響が残っているなか、持ち直しが持続しているが、そのテンポは鈍化した。

来期(11/10～12月期)については、5.5ポイント低下し▲44.1となる見通しで、前年同期実績より15.3ポイント下回る見込み。

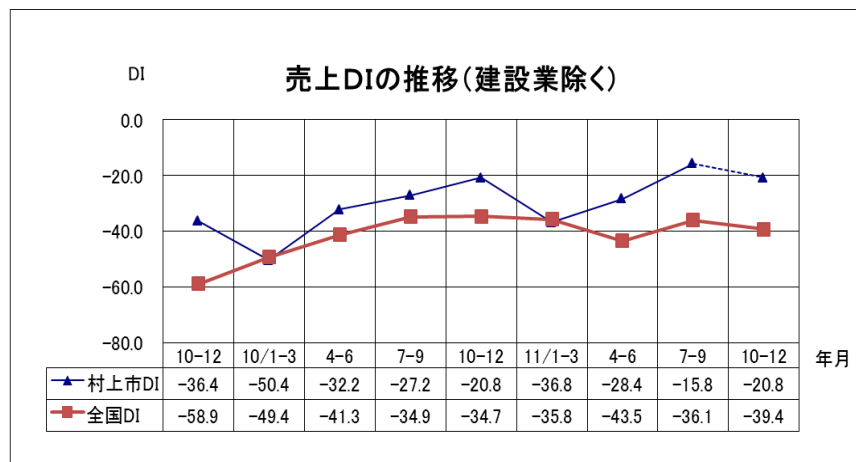
今期の全国DIは前期比5.7ポイント上昇の▲42.7で、上昇は3期振り。来期は、更に4.0ポイント低下し▲46.7となる見通し。





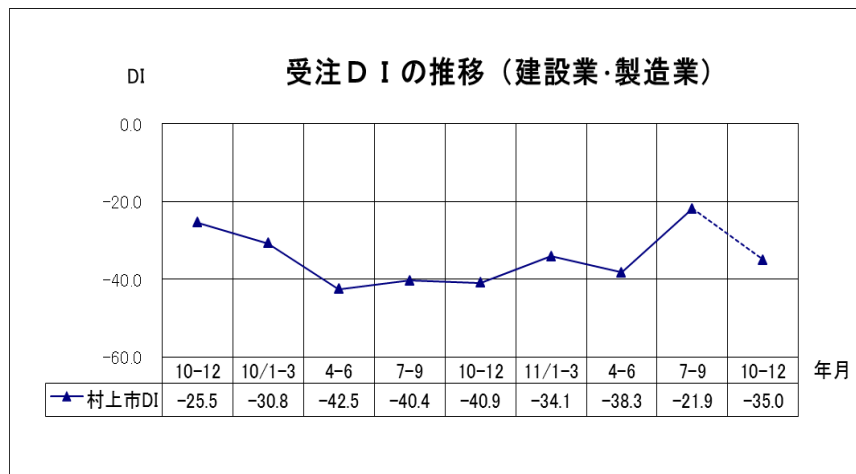
今期の業種別業況判断DIは、建設業が26.8ポイント、サービス業が8.6ポイント、飲食・宿泊業が2.8ポイントそれぞれ上昇した。小売業は、地上デジタル放送への完全移行により薄型テレビの需要が一巡し、また残暑による秋物の不振等でDIは13.7ポイント低下、製造業は受注減少や地元スーパーの閉店などが影響しDIが10.1ポイント低下した。景気牽引役の製造業が5期振りにDIが下降に転じ、円高の影響を受け始めた企業もあるなど、今後の動向に注意が必要。(円高の影響調査では、このまま円高が続けば仕入にはリットがあるものの、輸出減少や生産の海外シフト等により産業の空洞化が進み、雇用の場が失われ、地域経済が弱体化すると懸念している企業が多い。)

来期については、秋の観光シーズンやボーナス商戦等の期待感などから、飲食・宿泊業、卸・小売業でDIが上昇し、他は低下する見通しである。



今期の売上DI(建設業除く)は、前期比12.6ポイント上昇の▲15.8で、調査開始(08/4~6月期)以来、最高の水準となった。全国DIは前期比7.4ポイント上昇の▲36.1で、上昇は3期振り。

来期については、5.0ポイント低下し▲20.8となる見通し。全国DIは3.3ポイント低下する見通しで、水準は村上市DIより18.6ポイント下回る模様。

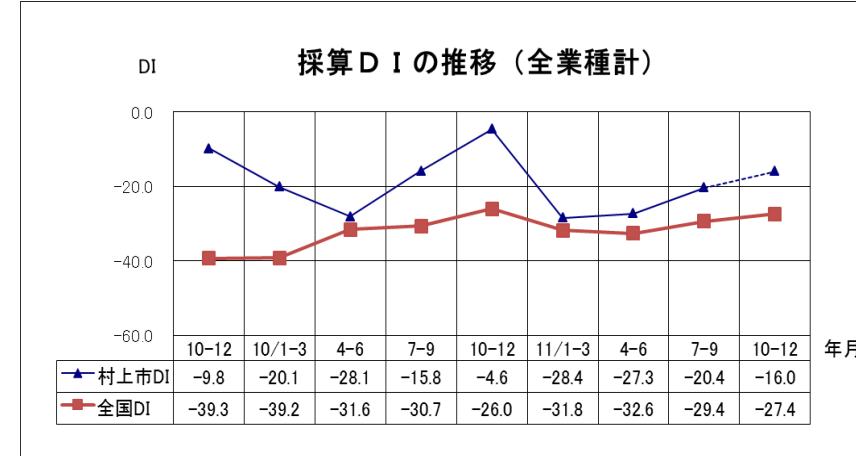


今期の受注DI(建設・製造業)は、16.4ポイントの大幅な伸びで▲21.9となり、調査開始以来、最高の水準となった。

〈DI内訳〉 前期 今期
 建設業▲48.3 → ▲45.5
 製造業▲17.7 → 11.1

来期については、更に13.1ポイント低下し、▲35.0となる見通しである。

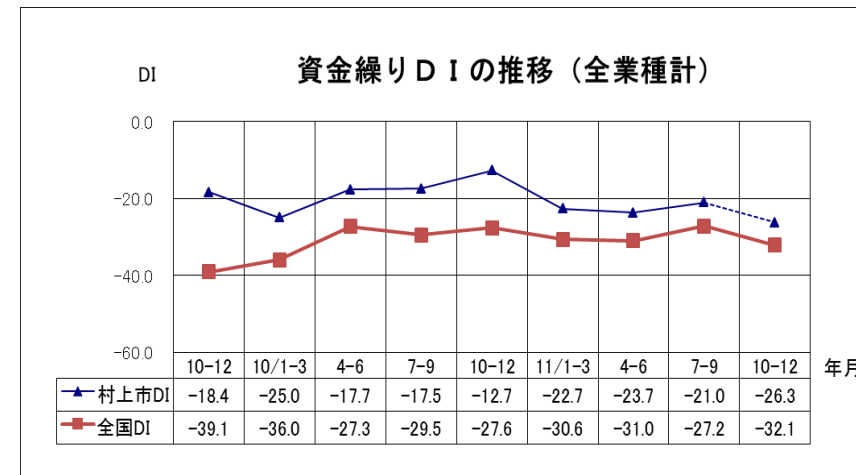
〈DI内訳〉 今期 来期
 建設業▲45.5 → ▲57.2
 製造業▲11.1 → ▲5.6



今期の採算DI(全業種計)は、前期比6.9ポイント上昇し▲20.4となり、前年同期実績を4.6ポイント下回った。全国DIは3.2ポイント上昇し、▲29.4となった。上昇は3期振り。

来期については、4.4ポイント上昇の▲16.0となる見通しだが、前年同期実績を11.4ポイント下回る見通しである。

全国DIは2.0ポイント上昇し、▲27.4となる見込み。

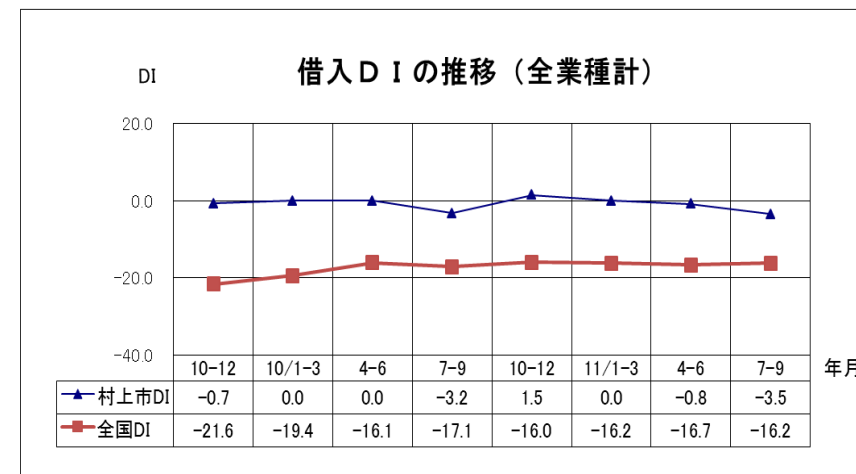


今期の資金繰りDI(全業種計)は、2.7ポイント上昇し、▲21.0となった。上昇は3期振り。

全国DIも前期比3.8ポイント上昇し▲27.2となり、3期振りの上昇となった。

来期については、5.3ポイント低下し▲26.3となる見通し。

全国DIも4.9ポイント低下し、▲32.1となる通し。

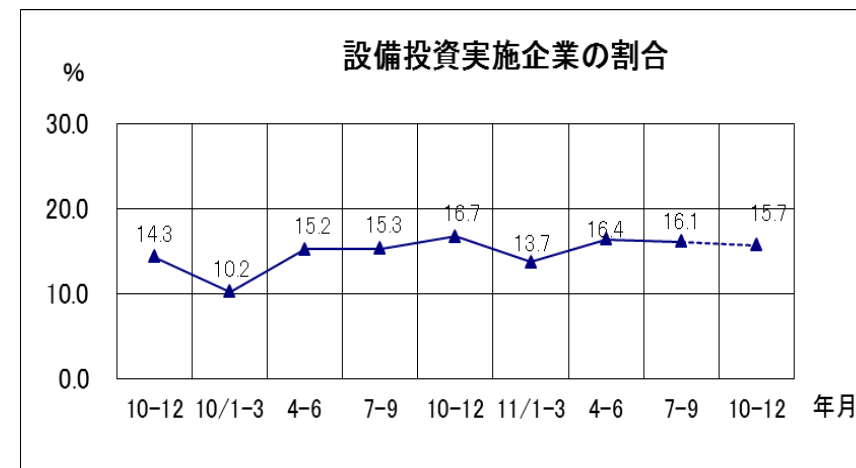


今期の借入DI(全業種計)は、2.7ポイント低下し、▲3.5となった。

〈内訳は以下の通り〉
 「容易になった」
 前期 5.0% → 今期 3.4%

「変わらない」
 前期 40.8% → 今期 39.7%

「難しくなった」
 前期 5.8% → 今期 6.9%



全業種における今期の設備投資した企業の割合は、前期比0.3ポイント低下の16.1%となった。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、更に0.4ポイント低下し15.7%となる見通しで、前年同期実績を1.0ポイント下回る見通しである。